

1 不足書類等送付用ラベル&メモ

* 出願書類に不備があり、不足書類を中央大学出願書類受付センターへ送付する場合に使用してください（通常の出願時には使用しないでください）。

* 選考料返還に関する手続（P.49、50 参照）など、中央大学入学センター事務部入試課宛の書類等送付には使用できません（宛先が異なります）。

① 封筒ラベル

点線部分で切り取り、任意の封筒に貼付してください。

表

✂

速達

〒112-8799

東京都文京区小石川4-4-2

✂ 日本郵便株式会社 小石川郵便局留 ✂

中央大学 出願書類受付センター 行

✂

簡易書留

裏

✂

□□□□ - □□□□

住所

✂

志願者氏名

✂

表面に貼付する

裏面に貼付する

② メモ

必要事項を記入し、点線部分で切り取り、不足書類と同封してください。

✂

① 志願者氏名

② 書類の種類（該当のものに○印）

<input type="checkbox"/>	大学入試センター試験成績請求票
<input type="checkbox"/>	調査書
<input type="checkbox"/>	英語運用能力を証明する書類

✂

③ 書類を送付した理由（該当のものに○印）





<input type="checkbox"/>	送付し忘れたため
<input type="checkbox"/>	不備による差し替えのため

✂

不足書類と同封して送付

2 Q&A (よくある質問)

出願書類について		
出願書類の郵送は締切日必着ですか？消印有効ですか？	⇒	締切日消印有効です。
調査書は何通必要ですか？	⇒	複数学部や試験方式への出願であっても、Web 出願登録 1 回につき 1 通で大丈夫です。ただし、必ず出願締切日のもっとも早い入学試験の出願期間内に提出してください。
高校卒業後 5 年以上経過しているため調査書が発行できません。	⇒	卒業証明書を提出してください。
高卒認定で出願する場合は、合格(見込)証明書を同封すればいいですか？	⇒	合格(見込)証明書では受け付けられません。 「合格(見込)成績証明書」 を同封してください。
試験当日メガネを使用しますがメガネをかけていない写真をアップロードしてしまいました。	⇒	メガネをかけた写真を再度アップロードすることをおすすめします。そのまま出願した場合、試験当日写真照合の際に、メガネをはずしてもらう場合があります。
写真は制服で撮影したほうがいいですか？	⇒	服装は問いませんが、 写真は、学生証にそのまま使用します 。在学中写真の変更はできません。また、試験当日の本人照合の際にも使用します。顔がはっきり写っている写真をアップロードしてください。(詳細 P.37、38)
Web 出願について		
志望学科の入力欄は第 1 志望以外は未入力でもいいですか？	⇒	志望学科の入力欄が複数ある場合は、必ずすべて入力してください (選考料(入学検定料)は加算されません)。第 1 志望以外の学科で合格になる可能性があります。統一入試の法学部と文学部のみ、第 1 志望以外の入力は任意です。
一度出願をしたのですが、追加出願はできますか？	⇒	追加で出願を希望する入学試験の出願期間内であれば、何度でも追加出願が可能です。ただし、追加出願をする場合は、必ず「追加出願」機能を使用して出願してください。「追加出願」機能を使用せずに別途出願してしまった場合、一方の入学試験しか受験できないなどの不利益が生じる場合があります。なお、これに伴う選考料(入学検定料)返還などの措置は一切講じません。出願書類については、必ず出願締切日のもっとも早い入学試験の出願期間内に提出してください。
受験票について		
受験票が届きません。	⇒	受験票は、UCARO にて各自で印刷し、試験当日に持参してください。郵送はしませんので注意してください。印刷可能期間は 2019 年 2 月 3 日(日)(順次)～2019 年 3 月 31 日(日)までです。UCARO の概要、会員登録については P.36 ≪「UCARO (ウカロ)」の登録≫を参照してください。 ※試験当日は、スマートフォン等での UCARO の画面提示での受験はできません。

<p>受験票の内容が間違っているようです。 (試験会場、選択科目、住所、氏名等)</p>		<p>志願票に記入した内容と受験票の内容が異なる場合は早急に入試課にお問い合わせください。ただし、志願内容を変更することはできません。</p>
<h3>選考料（入学検定料）について</h3>		
<p>選考料（入学検定料）が減額となるのはどのような場合ですか？ (選考料（入学検定料）の特例措置)</p>		<p>同一試験日、同一学部（法学部は同一学科）で一般入試と英語外部検定試験利用入試やセンター試験利用入試を併願する場合、一般入試の選考料（入学検定料）のみで受験することができます。また、法学部の法律学科と国際企業関係法学科との併願、理工学部のセンター併用方式の2学科の出願、および、統一入試で複数出願をする場合も、選考料（入学検定料）が減額となります。 ※詳細は、P.45～48で確認してください。</p>
<p>選考料（入学検定料）の納入には、どのような方法が使用できますか？</p>		<p>クレジットカード、コンビニエンスストア、ネットバンキング、金融機関ATM（Pay-easy）で支払いができます。 ※詳細は、P.39、40で確認してください。</p>
<h3>合格発表について</h3>		
<p>合否が確認できません。</p>		<p>合格発表はUCARO（P.62）にて行います。合格発表日時を確認してください。合格発表日の9：00から入学手続締切日の23：59まで確認が可能です。</p>

3 寄付金

本学では、教育環境の整備・充実を目的に、在学中にご父母の皆様に「教育環境充実資金」という任意のご寄付をお願いする予定です。入学後に募集のご案内を送付いたします。

4 受験の際の宿泊施設

受験の際の宿泊施設について、中央大学生協旅行センターでご案内しています。

中央大学生協旅行センター TEL 042-674-3048 FAX 042-674-3046

E-mail kokunai@coop.chuo-u.ac.jp

多摩キャンパスにおける喫煙について

中央大学は、自らの社会的責任を自覚し、学生・教職員の受動喫煙を防止し、健康を増進するために、建物内全面禁煙、指定場所以外での禁煙、歩行中喫煙・吸殻ポイ捨て厳禁の徹底を進めてきました。さらに、キャンパス内を全面禁煙化する方針の下、段階的に喫煙所を閉鎖し、現在は仮設の喫煙所2か所のみを、2019年4月末までの予定で設置しています。2019年度以降の喫煙対応については今後検討することになります。

5 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

法学部

<法学部の求める人材>

法学部は、地球的視点に立った法的問題意識と法的解決能力、言い換えれば「グローバルなリーガルマインド」を身につけた人材の育成を教育目標にしています。

21世紀に入り、地球的規模の問題や紛争はますます増えています。身の回りのさまざまな問題へ対応するだけでなく、こうした地球規模の問題をも暴力や武力に頼らず合意やルールに基づいて解決することを喫緊の課題として抱えています。そのような時代だからこそ、最初に掲げた人材が必要とされているのです。

「グローバルなリーガルマインド」を身につけるために、①地球規模での法化社会を読み解くことができる「基礎的な法律的・政治的専門」と、②自立した地球市民として必要な、批判的・創造的思考ができる「新たな教養」の両方が必要であり、それら2つがひとりの人間のなかで融和した形で実現されることが求められます。それゆえに、法学部は、次のような資質・姿勢を持っているみなさんの入学を望みます。

- (1) 自分自身を含めた身近な問題に対する真剣な関心
- (2) 物事を厳密に考え、批判的に捉える思考
- (3) 健全で強い倫理観・責任感

その基礎に立って、法学部での学びを通して「グローバルなリーガルマインド」を修得し、一人ひとりが社会の有意な一員として巣立っていくことを私たちは願っています。

<入学前に修得しておくことが望まれる学修内容・学力水準等>

入学試験で課している科目はいずれも法学部での学修を進めるにあたって重要です。英語は世界におけるコミュニケーション手段としてだけでなく、「グローバルなリーガルマインド」を修得し世界で活躍する国際人を目指すためにも、さらに多文化社会を知るためにも不可欠な科目です。国語における読解力・文章力・批判的思考力、数学で訓練される論理的かつ合理的な思考力、地理歴史・公民で修得する社会の現実と課題に関する判断力・洞察力、物理・化学・生物などの理科科目で培われる自然界や環境についての理解力も、すべて法学部での学修の基礎となります。したがって、これらの科目については高等学校段階で十分な学習を積むことを求めます。

そのうえで、一般入試や大学入試センター試験利用入試では、主にこれらの知識面について確認します。また、自己推薦入試や指定校推薦入試でおこなう「講義理解力試験」は、大学で行う講義と同じ形式で試験を行うものであり、社会への理解力、洞察力、思考力、分析力を問うものです。推薦入試等で課している「志望理由書」や「面接・グループディスカッション」は、現在の自分の関心、将来設計、そのために自分が学ぶ学修について、さらにはこれまで周囲とどのように主体性をもって関わってきたのかなどを確認するものです。

現在の自分の社会的関心を確認し、自分が将来なりたい理想像（ロールモデル）を探し、法学部への進学が自分にとって最適な選択かどうかを考えながら、受験の準備をしてください。20年30年先の自分からみて必要と考える基礎的知識を育み、目的意識をもって入学試験に臨んで頂きたいと思えます。

I
入
試
概
要

II
試
験
詳
細

III
出
願

願

IV
受

験

V
合
格
表
入
学
手
続
学
費

VI
そ
の
他

＜学力の構成要素に関する評価＞

この募集要項に記載の各入学試験においては、学力を構成する各要素について、以下のとおり評価します。

◎：とくに重視する／○：重視する

入学試験種別	知識 技能	思考力 判断力 表現力	特徴
統一入試	◎	○	本学独自の筆記試験において「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
一般入試	◎	○	本学独自の筆記試験において「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
センター 単独方式	◎	○	大学入試センター試験において「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
センター 併用方式	◎	○	本学独自の筆記試験および大学入試センター試験において「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。

経済学部

＜経済学部の求める人材＞

経済学部では、冷静な思考力と温かい心を持った国際的な視野に立つ経済人を養成することを理念とし、次のような目標を持つ学生を求めています。

- ・ 私たちの生活の基礎となる経済の仕組みについて専門的に学びたい学生
- ・ 論理的な思考力と、プレゼンテーション能力を身につけたい学生
- ・ パソコンを使った情報処理技術や、会計の専門知識を身につけたい学生
- ・ 企業や官公庁、国連、NGOなどで、経済の専門知識を活かしたい学生
- ・ 環境問題、福祉政策の専門知識を身につけ、地域社会に貢献したい学生
- ・ 将来ロースクールなど専門職大学院に入って、経済に強い専門家を目指す学生
- ・ 将来大学院に入って、より高度な経済学を学ぶことを目指す学生

入学者選抜においては、本学独自の一般入試のほか、大学入試センター試験を利用した選抜も行っており、入学後の学修の基礎となる国語、英語、地理歴史、公民、数学の科目を中心として、高等学校レベルの十分な知識と論理的思考力を重視して選抜しています。このほか、特別入試として、自己推薦入試、海外帰国生等特別入試、英語運用能力特別入試、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語特別入試、外国人留学生入試、推薦入試（指定校、スポーツ）、編入学試験があり、外国語、小論文、面接などの試験により、幅広い問題関心とすぐれた資質をもち、経済学部で学修する意欲の高い学生を選抜します。

＜入学前に修得しておくことが望まれる学修内容・学力水準等＞

高等学校卒業に必要な諸科目、とりわけ国語、英語、地理歴史、公民、数学はいずれも経済学部での学修を進めるにあたって重要です。特に国語できた文章力、数学できた論理的思考力、地理歴史、公民で修得した現代世界のなりたちとその諸問題に対する広い知識は、いずれも経済学部での学修の基礎となります。また英語力は、経済学及びその関連領域を専門的に学ぶ上で必要なだけでなく、今日のグローバル社会の中で活躍する経済人を目指すならば、不可欠なものといえるでしょう。

経済学部では、これらの素質を持った学生が入学後にさらにその力を伸ばし、国際的で豊かな教養・学識と専門能力を身につけ、社会のさまざまな分野においてその学識と能力を発揮することができるようにするために、教育課程においてもさまざまな取り組みを行っています。

<学力の構成要素に関する評価>

この募集要項に記載の各入学試験においては、学力を構成する各要素について、以下のとおり評価します。

◎：とくに重視する／○：重視する

入学試験種別	選抜方法	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力
一般入試	筆記試験	◎	◎
英語外部検定試験利用入試	英語外部検定試験	◎	
	筆記試験	◎	◎
センター併用方式	筆記試験	◎	◎
	大学入試センター試験	◎	○
センター単独方式（前期選考 4教科型・3教科型）	大学入試センター試験	◎	○
センター単独方式（後期選考）	大学入試センター試験	◎	○
統一入試	筆記試験	◎	○

商学部

<商学部の求める人材>

商学部では、教育研究上の目的を踏まえ、21世紀の社会に貢献できる優れた実地応用力と人間性を備えた有為な人材を商学部の教育課程を通じて育成することができるように、学生として受け入れる者には、それにふさわしい基礎学力と学習意欲を有していることはもとより、商学部および各学科の教育目的や教育内容についてよく理解し、商学部で学んでみたいという強い志向性や目的意識、向上心などを有していることを望みます。このような方針に基づき、商学部の入試制度のもとで実施する各種入学試験を経て学生を受け入れます。

<入学前に修得しておくことが望まれる学修内容・学力水準等>

高等学校における教科をしっかりと学び、基礎学力を身につけておくことが何よりも大切です。高等学校での各教科の学習は、商学部入学後において必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、総合的な判断力などの基礎となるものであり、高等学校における学習内容の十分な理解は、商学部入学後により専門的な学習を深める上でも必要不可欠なものです。

また、これからの21世紀の社会では、知識が中心的な役割を果たし、知的好奇心を持って生涯にわたって学び続けることが重要となります。そのため、高等学校等での学習を通じて、学ぶことの面白さや学ぶ習慣を身につけておくことも大切です。さらに、目的意識を持って商学部に入学できるようにするために、商学部および各学科の教育目的や教育内容あるいはそれらに関係する各専門分野の学習内容などを調べるとともに、併せて自分の将来の進路や職業などについて考えてみるのも必要なことです。

I
入
試
概
要

II
試
験
詳
細

III
出
願

IV
受
験

V
合
格
表
入
学
手
続
学
費

VI
そ
の
他

<学力の構成要素に関する評価>

この募集要項に記載の各入学試験においては、学力を構成する各要素について、以下のとおり評価します。

◎：とくに重視する／○：重視する

入学試験種別	選考方法	知識 技能	思考力 判断力 表現力	趣旨
一般入試	筆記試験	◎	○	本学独自の筆記試験において「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
統一入試	筆記試験	◎	○	
センター 単独方式	大学入試センター 試験	◎	○	大学入試センター試験において「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
センター 併用方式	筆記試験（英語、 数学）	◎	○	本学独自の筆記試験および大学入試センター試験において「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
	大学入試センター 試験（英語、数学）	◎	○	

理工学部

<理工学部の求める人材>

理工学部では、理学および工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行うことにより、確実な知識と応用力を身につけ、新しい課題への果敢な挑戦力と組織をまとめる卓越した交渉力を持ち、人類共有の知的資産たる科学技術を継承し、自らの発見の成果発表を通じて積極的に社会貢献できる人材を養成することを目的としています。この目的を達成するために、以下の資質を有する人材を多様な入試形態により受け入れます。

- ・基本的な知識・基礎学力を有する人
高等学校普通科の課程全般の内容を幅広くかつ十分に理解をしていることが必要です。特に、理工学部で学ぶためには数学・理科・英語についての基礎学力が必要です。
- ・問題解決のための思考力・分析力・表現力の基礎を身につけている人
新しい課題や問題に直面した際、時間がかかっても物事を筋道立てて考えるためには、論理的な思考力と分析力を身につけていることが必要です。また、自分の考えた内容について他者に理解してもらうためには表現力が必要です。
- ・他者と協働するためのコミュニケーション力を身につけている人
他者と協働して効果的に学修に取り組むためには、一定水準以上のコミュニケーション力と組織的行動能力が必要です。
- ・大学での学修に対してモチベーションの高い人
大学での学修に主体的に取り組むためには、志願する学問分野への強い興味と勉学意欲を持つことが求められます。

大学で効果的な学修を進めるためには、多様な資質を有する学生が互いに協働しつつ切磋琢磨することが重要です。このため、理工学部では下記のように多様な入試形態を設け、それぞれの入試形態ごとに特徴のある人材を受け入れます。

- ・一般入試：基礎学力（数・理・英）が高く、思考力・分析力を有する人を選抜します。
- ・センター試験利用入試単独方式：十分な基礎学力と思考力・分析力を有する人を選抜します。
- ・センター試験利用入試併用方式（理数選抜入試）：基礎学力が高く、特に理数科目について優れた思考力・表現力を有する人を選抜します。

<学力の構成要素に関する評価>

この募集要項に記載の各入学試験においては、学力を構成する各要素について、以下のとおり評価します。

◎：とくに重視する／○：重視する

学力の構成要素 本入学試験における評価項目	知識・技能		思考力 判断力 表現力		特徴
	知識獲得力	専門性	問題解決力	創造力	
一般入試	◎	○	◎	○	本学独自の筆記試験において「知識獲得力」、「問題解決力」、「創造力」を総合的に評価します。
センター併用方式	◎	◎	◎	○	本学独自の筆記試験および大学入試センター試験において「知識獲得力」、「専門性」、「問題解決力」、「創造力」を総合的に評価します。
センター単独方式	◎		◎	○	大学入試センター試験において「知識獲得力」、「問題解決力」、「創造力」を総合的に評価します。

文学部

<文学部の求める人材>

文学部が人材育成の目標としている「人を読み解く力」を備えるためのアプローチは、けっして単一ではありません。文学部では、人文科学系（言語、文学、芸術、歴史、哲学）・社会科学系（社会、情報、教育、心理）を含む多様な学問研究を通じて、現象の本質を洞察し概念化する想像力・創造力を養い、社会、言語、文化についての素養を身に付けることを目指しています。

そこで、文学部が入学を期待するのは以下のような学生です。

- 人間や社会に関するテーマを深く探究したい人
- 日本や外国の言語と文学、歴史、文化、社会に広く関心を寄せる人
- 人間の思考や行動、人間関係や社会構造に積極的な興味を抱く人
- 鋭い感性と幅広い教養を身に付けたいと思う人
- 論理的な思考力、柔軟な発想力、的確な表現力を養いたいと思う人
- 高等学校段階までの学習において、社会に関する基礎的な教養、言語、文化を学ぶ基礎としての国語と外国語の能力、論理的な思考力と読解力を身に付けている人

<入学前に修得しておくことが望まれる学修内容・学力水準等>

1. 教科・科目毎に求める能力

「国語」：母語に対する知識と関心を持ち、日本および世界の文学史における基本的な文学作品を読破していること。特に現代文については、新聞の社説あるいは新書・概説書程度の論説文を読みこなせる読解力と、同程度の論理的な内容の文章を書く文章力を身に付けておくこと。

「外国語」：母語以外の外国語を修得することによって、母語を相対化し、言語一般が重要であると認識していること。新聞記事程度の日常的で短い文章を、辞書を用いなくてもおおよそ理解できるだけの読解力と、自分の考えや感情を簡潔に伝えられ、電子メールを書ける程度の表現力を身に付けておくこと。

「日本史」「世界史」：歴史全体の流れを把握しておくこと。

「数学」：論理的にものごとを考える基礎力を養うこと。

2. 専攻毎に求める能力

国文学専攻

- ・現代文・古文・漢文：さまざまな文章を読む楽しみを体験しておくこと。
- ・日本史・世界史・地理：文学の歴史的背景を理解しておくこと。

英語文学文化専攻

- ・ 外国語：少なくとも英検二級程度の英語運用力を身に付けておくこと。
- ・ 社会：人類の歴史や現代の世界情勢への広い関心を持つこと。

ドイツ語文学文化専攻

- ・ 外国語：論理的な文章を読んだり書いたりする基礎力を身に付けておくこと。
- ・ 世界史：特にヨーロッパの歴史を学んでおくこと。

フランス語文学文化専攻

- ・ 外国語：基礎的学力を十分身に付けておくこと。
- ・ 世界史・地理：ヨーロッパの歴史と地理に関心を持つこと。

中国言語文化専攻

- ・ 国語：論理的な文章を読んだり書いたりする基礎力を身に付けておくこと。
- ・ 外国語：平易な文章を読んだり書いたりする基礎力を身に付けておくこと。
- ・ 世界史：特に中国の歴史を学んでおくこと。

日本史学専攻

- ・ 高校で学習する日本史 B の内容を十分に理解し、基礎的な歴史用語について学習しておくこと。
- ・ 中学・高校で学習する世界史・地理について基礎的な点は理解できるよう、学習しておくこと。
- ・ 歴史史料に接することができるよう、高校で学習する古文・漢文について基礎的な読解力を身に付けておくこと。
- ・ 英語について海外の資料や論文に接することができるよう、高校で学習する基礎的な読解能力は身に付けておくこと。

東洋史学専攻

- ・ 現代文：新聞の社説あるいは新書・概説書程度の論説文を読みこなせる読解力と、同程度の論理的な内容の文章を書くことのできる文章力を身に付けておくこと。
- ・ 漢文：中国史を専門に学ぶ場合は、漢文の基本句形を理解していること。
- ・ 古文：中国史を専門に学ぶ場合は、古文の文法の規則に習熟していること。
- ・ 外国語：新聞記事程度の日常的で短い文章を、辞書を用いなくてもおおよそ理解できるだけの読解力と、自分の考えや感情を簡潔に伝えられ、電子メールを書ける程度の表現力を身に付けておくこと。
- ・ 日本史：日本史の大まかな流れや出来事について、高校の教科書に書かれている程度の内容を理解していること。
- ・ 世界史：世界史の大まかな流れや出来事について、高校の教科書に書かれている程度の内容を理解していること。

西洋史学専攻

- ・ 外国語：論理的な文章を読んだり書いたりする基礎力を身に付けておくこと。
- ・ 日本史・世界史：歴史全体の流れを把握しておくこと。
- ・ 国語：レポートや論文を作成するのに必要な読解力と文章力を養っておくこと。

哲学専攻

- ・ 国語（現代文、古文、漢文）：論理的な思考をし、論理的な分析をし、論理的な文章を書くことができること。さまざまな文学作品（小説、詩、評論、古典など）を多く読んでいること。できれば、哲学書や思想・宗教関係の本も読んでいること。
- ・ 外国語（英語など）：外国語の文章をきちんと解釈する基本を習得していること。文法に則って、外国語を読解する能力を身に付けていること。
- ・ 倫理：西洋、東洋の思想・哲学の歴史を一通り知識としてもっていること。有名な思想家や哲学者や宗教家の学説や考え方を知っていること。
- ・ 世界史、日本史：歴史についての基本的な知識をもっていること。

社会学専攻

- ・国語：論理的な文章読解能力や文章作成能力などの基礎力を身に付けておくこと。
- ・外国語（英語など）：論理的に文章を読解する基礎力を身に付けておくこと。
- ・日本史・世界史：歴史全体の流れを適切に理解する基礎力を身に付けておくこと。
- ・政治・経済：政治・経済の仕組みや歴史を適切に理解する基礎力を身に付けておくこと。

社会情報学専攻

- ・国語：論理的な文章の読解力、および文章作成の基本的能力（段落の構成、語彙など）を身に付けておくこと。
- ・数学：数学Ⅰ・Aを履修していること。データの処理、分析、解釈に必要な数学の基礎的知識を身に付けておくこと。

教育学専攻

- ・国語（現代文）：論理的な文章を読みこなす読解力と、論理的な文章を書くことができる基礎的な力をつけておくこと。
- ・外国語：ホームページや新聞記事程度の英文を読む力を持っていること。
- ・日本史・世界史：歴史についての基本的な知識をもっていること。
- ・現代社会、政治・経済、倫理についての基礎的な知識をもっていること。

心理学専攻

- ・数学：心理学は実証研究の過程で統計学の手法を駆使するため、数学的思考能力を身につけておくことが望ましい。特に、数学Ⅰでは「データの分析」、数学Aでは「場合の数と確率」、数学Bでは「確率分布と統計的推測」の分野を重点的に学んでおくこと。
- ・英語：心理学では最新の研究成果を学ぶために学部生のうちから英語の学術論文を読みこなす必要がある。そのため、高校時代にある程度の英文解釈力を身に付けておくこと。
- ・生物学：発生学、進化論といった領域の基本的事項を学んでおくこと。
- ・倫理：研究遂行のための倫理、臨床を行う上での倫理といったことの基本となる倫理学を学んでおくこと。

<学力の構成要素に関する評価>

この募集要項に記載の各入学試験においては、学力を構成する各要素について、以下のとおり評価します。

◎：とくに重視する／○：重視する

入学試験種別	選抜方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力
一般入試	筆記試験	◎	○
統一入試	筆記試験	◎	○
英語外部検定試験利用入試	筆記試験	◎	○
	英語外部検定試験	◎	○
センター単独方式 (3教科型、4教科型)	大学入試センター試験	◎	○

総合政策学部

<総合政策学部の求める人材>

中央大学総合政策学部の理念は「政策と文化の融合」（文化的背景を理解して現代社会が直面する諸問題を解決する視点）です。この理念に共感する次のような人物を求めます。

1. 「社会問題・現象への関心」：実際に国内外で生じている社会問題・現象を解き明かそうという強い知的好奇心と行動力を持ち続けられる人
2. 「学際的・国際的理解」：様々な領域の知識のみならず、異なる文化圏の慣習や制度等に関心を

抱き、違いの本質を意識しながら問題解決への意欲を持ち続けられる人

3. 「社会貢献への意欲」：社会問題・現象の分析のみならず、具体的に解決・解明に取り組み、社会の発展に寄与する意思を持ち続けられる人

＜入学前に修得しておくことが望まれる学修内容・学力水準等＞

中央大学総合政策学部は、PBL（Project Based Learning、問題解決型学習）を重視しています。本学部の学生は、自主的に研究テーマを設定し、さまざまな専門分野の知識をいかして調査研究を進め、研究レポートにまとめます。このため、次のような学習経験を持つ人物を求めます。

1. 国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語において高等学校等を卒業する知識・技能を有している。特に外国語に興味を持ち、積極的に学習してきた人物が望ましい。
2. クラブ活動、生徒会活動、ボランティア活動他の学校内外での諸活動において主体性を持って行動した経験を有している。
3. 上記1. と2. の活動を通じ、物事を多面的かつ論理的に思考して判断し、協調性を維持しつつも自らの意見を的確に表現することを心掛けている。
4. 社会、人間、文化、科学に関わる様々な問題・事象に広く関心を有している。

＜学力の構成要素に関する評価＞

この募集要項に記載の各入学試験においては、学力を構成する各要素について、以下のとおり評価します。

◎：とくに重視する／○：重視する

入学試験種別	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	特徴
一般入試	◎	○	本学部独自の試験にて「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
英語外部検定試験利用入試	◎	○	本学部独自の試験・外部英語検定試験により「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
センター併用方式	◎	○	本学部独自の試験・大学入試センター試験により「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
センター単独方式（前期選考）	◎	○	大学入試センター試験により「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
センター単独方式（後期選考）	◎	○	大学入試センター試験により「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
統一入試	◎	○	本学独自の試験により「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。

国際経営学部

3つのポリシー

1. ディプロマポリシー

(1) 国際経営学部において養成する人材像

企業活動がグローバルに展開する現代においては、一企業や自国の利益のみならず、各国が共存し、互恵関係をもって持続的に発展する社会を構築することができる人材が求められています。国際経営学部では、中央大学の建学の精神である「實地應用ノ素ヲ養フ」という教育理念に基づき、経営学、経済学に関する理論とその関連領域にかかる教育研究を行うことにより、企業経営やグローバル経済に係る専門知識を駆使して、国際地域研究を通じた学びと高い語学運用能力で国際社会を舞台に活躍できる、実践知を備えたグローバルビジネスリーダーの養成を目指します。

(2) 国際経営学部を卒業するにあたって備えるべき資質・能力

国際経営学部では、グローバルビジネスリーダーとして必須となる外国語運用能力と国際コミュニケーション能力のほか、以下の専門能力を修得することを期待しています。

- 1) 企業のグローバルな活動における諸課題を経営学及び経済学を基本とした視点から把握し、組織とその活動メカニズムの理解に基づき業務を的確に行うことができる、深い専門能力
- 2) 統計的方法と手法によって現状把握と分析を行い、企業の経営戦略を立案することができる、深い専門能力
- 3) 自国と他国の歴史・政治経済・文化の違いを正しく理解し、互惠関係を構築して持続的発展へとつなげることができる、深い専門能力

(3) 国際経営学部の卒業に必要な学習量と卒業要件

国際経営学部では、卒業に必要な単位数を124単位、必要最低修得単位数は専門科目64単位、総合教育科目18単位、グローバル人材科目16単位、演習14単位としています。また、最高履修単位数は154単位として、うち1年次36単位、2年次38単位、3年次40単位、4年次40単位と無理のない履修ができるよう配慮しています。

(4) 活躍することが期待される卒業後の進路

国際感覚に優れ、高度の専門能力と高い語学運用能力に裏打ちされたグローバルビジネスリーダーの活躍先としては、グローバル企業や外資系企業のほか、国際的な活動をしているコンサルティング企業やシンクタンク、公的機関、国際機関が想定されます。

2. カリキュラムポリシー

(1) 国際経営学部において展開するカリキュラムの基本方針・構成

国際経営学部では、企業経営やグローバル経済に係る専門知識を駆使して、国際地域研究を通じた学びと高い語学運用能力で国際社会を舞台に活躍できる、実践知を備えたグローバルビジネスリーダーの養成を目指しています。したがって、そのカリキュラムにおいても、グローバルビジネスリーダーの素養が身につくよう、総合教育科目群、専門科目群、グローバル人材科目群を設置し、基礎から発展へと段階的かつ体系的に科目を編成しています。

具体的には、専門科目群に、経営学や経済学を基礎とした関連科目を本学部の学びの核（コア）として位置づけ、国際経営スタンダード科目群として設置しています。さらに、国際経営スタンダード科目群の学修を発展・応用させる科目群として企業経営科目群、グローバル経済科目群、国際地域研究科目群を設置することにより、専門知識に厚みと深みを持たせています。

これらの専門知識を支える学びとして、総合教育科目群に基礎教養科目群、情報統計科目群を設置しています。

さらにグローバル人材科目群では、グローバル人材に必須となる語学運用能力やコミュニケーションスキルを年次を追って段階的に修得できるよう科目を設置しています。

これらの知識やスキルを定着、深化させ、さらに人間力を養う場として演習（ゼミ）を各年次に設置しています。

(2) カリキュラムの体系性

1) 1年次

到達目標：「経営学、経済学の基礎を学ぶ」

「国際経営学部での英語で実施する授業を受けるための英語力を身につける」

①専門科目の学びのコアとなる国際経営スタンダード科目群の中でも基盤となる「経営学入門」、「経済学入門」および「ミクロ経済学」を学びます。また、専門科目を支える科目として、「経営統計入門」を学びます。

②「アカデミック英語Ⅰ」では、英語で実施される専門科目等の授業内容が理解できるレベルを目標として、英語による【質問力】と【解決力】を向上させることを目的とします。また、「アカデミック英語Ⅱ」では、専門科目の講義で得た知識を発展させ、自ら英語で世界に向けて情報を伝える力が伸長できるよう【発信力】の増強を図ります。

③「Global StudiesⅠ」では、短期での海外語学研修を行います。現地研修での体験を通じて、英語運用能力の必要性を喚起させるとともに、コミュニケーション能力、自己管理能力、異文化適

応能力、問題解決能力を養います。

- ④本学部の学びを支え、グローバルコミュニケーションにおいても土台となる基礎教養科目群から、自然科学、社会科学、人文科学等の教養科目を学びます。
- ⑤少人数教育による「入門演習」(ゼミ)を行い、大学では何のために、何を、どのように学ぶかを理解し、その手法を学びます。

2) 2年次

到達目標：「経営学、経済学を発展させた、企業経営分野・グローバル経済分野の専門科目を学ぶ」
 「国際地域研究として、各国の歴史・政治経済・文化を学ぶ」
 「専門科目の学びをディベートやレポート等で表現できる英語力を身につける」

- ① 1年次に修得した経営学、経済学の発展として、国際経営スタンダード科目群から「国際経営論」、「空間経済学」、「戦略経営論」、「多国籍企業論」、「国際開発論」を学び、3・4年次での専門科目の学びにつなげます。
- ② 自国と他国の歴史・政治経済・文化の違いを正しく理解するため、1・2年次で各地域の「政治・経済」や「経済史」のほか、「異文化経営論」「日本的経営論」を学びます。
- ③ 「アカデミック英語Ⅲ」では、専門科目を基軸とした英語での【思考力】と【正しい発音】を修得することを目標とします。また「アカデミック英語Ⅳ」では、英語による総合的な【表現力】の完成を目指します。
- ④ 2年次以降も少人数教育による「専門演習」(ゼミ)を行います。専門演習は、専門分野における本格的な研究活動の中心部分を構成します。

3) 3・4年次

到達目標：「これまでの学びの集大成として、英語または母語以外の言語による卒業論文を制作する」
 「企業経営やグローバル経済に係る専門知識を駆使して、国際地域研究を通じた学びと高い語学運用能力で国際社会を舞台に活躍できる、実践知を備えたグローバルビジネスリーダーを養成する」

- ① 3・4年次は、これまで国際経営スタンダード科目群において培ってきた知識を応用させるべく、企業経営科目群、グローバル経済科目群にある先端的な専門科目を学ぶとともに、国際地域研究科目群の専門科目により各地域での経済論や企業論を学びます。
- ② 国際コミュニケーション能力の向上のために、コミュニケーションスキル科目群から英語・中国語・スペイン語・日本語による「ビジネスコミュニケーション論」、「ビジネス交渉論」を学びます。また、「ATC21s (Assessment and Teaching of 21st Century Skills)」では、これまで修得したコミュニケーションスキルの統合化を行います。
- ③ 「専門演習」において、学びの集大成として英語または母語以外の言語による卒業論文を制作することを目標とします。
 卒業時には、企業経営やグローバル経済に係る専門知識、国際地域研究を通じた学びと高い語学運用能力で国際社会を舞台に活躍できる実践知を備えていることを目標とします。

3. アドミッションポリシー

(1) 国際経営学部の求める人材

国際経営学部では、急速に変化するグローバル社会において、企業経営やグローバル経済に係る専門知識を駆使して、国際地域研究を通じた学びと高い語学運用能力で国際社会を舞台に活躍できる、実践知を備えたグローバルビジネスリーダーを養成することを理念としています。したがって、次のような学生を求めています。

- 1) 地球規模のビジネスに高い関心を持ち、企業活動を通じて経済や社会の発展に寄与したいと考える人
- 2) 諸外国の商慣習やその背景にある地域文化に関心があり、語学運用能力とビジネススキルを獲得して、グローバル企業や国際的なコンサルティング企業、シンクタンク、公的機関、国際機関で活躍したいと考える人
- 3) 多様性を尊重し、そこから新たな価値を創造することによって、社会に貢献したいと考える人
- 4) 学内の活動のみならず、広く社会に関わる組織やチームの運営に主体的に取り組み、リーダーの役割を担いたいと考える人

(2) 入学前に修得しておくことが望まれる学修内容・学力水準等

いかなる選抜方式においても、高等学校卒業程度の基礎学力（知識や技能）のほか、語学力、表現力、論理的思考力、国際社会への関心、コミュニケーション能力、そして専門領域への探求心が求められます。自ら課題を発見し、それを解決すべく積極的に思考・行動し、母語および外国語の運用能力を高める努力を惜しまない学生を歓迎します。

国際情報学部

<国際情報学部の求める人材>

国際情報学部では、建学の精神にもとづき、複雑で不確実な高度情報社会を見通し、公正な社会を構築する力を涵養する実地応用教育を展開します。現代社会の諸問題に対応すべく、ICT 情報基盤を理解し、情報法に関する知識及びそれに基づく思考力と、国際コミュニケーション能力に裏打ちされた他者理解力・自己発信力によって、解決策（政策）を立案実行するプロジェクトマネージャーたり得る人材を養成します。

これを実現するため、一定の高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で行動力のある以下の人材を求めます。

- グローバルな情報社会に強い関心を持ち、様々な分野の人々と協働しながらより良い社会を実現したいと考える人材
- ICT を活用したシステムやサービスを提供し、社会の発展に貢献したいと考える人材
- 今日の国際問題・社会問題を解決するために、新たな仕組みを構築したいと考える人材
- 自分とは異なる意見にも真摯に耳を傾け、また説得してまとめ上げ、一つの目標に向かって全員で努力することを厭わないと考える人材
- 夢と思われていた近未来の世界を、自分の力で実現したいと願う人材

<入学前に修得しておくことが望まれる学修内容・学力水準等>

論理性、読解力及び表現力、グローバルな社会において必要な英語力、論理的思考力、現代社会の歴史や背景への理解、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響への理解、これらについて幅広く学んでいることが望まれます。